

実績ある技術力・開発力で市場をリードするサービス創出へ 目指すは開発サプライチェーン構築によるグローバル展開

大阪エヌデーエス(大阪府大阪市)は1993年の設立以来、エンタープライズと組込み分野でソリューションサービスを提供する。IoT/5G時代にあってソフト開発の領域にとどまらず、組込み開発にもクラウドやハードウェア技術を取り入れ業務の拡張を図っている。4月にはアドバンスドテクノロジーセンターを開所し新機軸を打ち出す。代表取締役の平山武司氏、同センター長であり事業戦略を担当する取締役の戸井田穰氏に新たな取り組みなど語っていただいた。

代表取締役 平山 武司 氏(左)

取締役/アドバンスドテクノロジーセンター長 戸井田 穰 氏(右)



ET&IoT展で注目された 新たなソリューション

先の7月28日・29日の両日に大阪で開催されたJASA主催「ET&IoT West 2022」に出展、ストーリーボードによるGUIソリューションと組込みLinuxのソリューションサービスを紹介し注目を集めた。

ストーリーボードは、カナダのCrank Software社製の組込みシステム開発に特化したGUI開発環境で、リアルタイム性にも優れたものだ。スクリプト言語には軽快に動作するオープンな開発言語として定評があるLuaを採用。デザイン性を重視した特長があり、デザイナーが作成したデザインデータを取り込める。7月28日にライセンス契約を締結し、ET&IoT展が皮切りとなり国内市場に向けライセンス提供、ハードウェアへの実装サポートなど展開を開始した。事業戦略を担当する取締役の戸井田穰氏は製品について「選んだ理由は、ワールドワイドに対応しているCPUやOS、IoT時代の肝となるリアルタイムOS、FreeRTOSの環境にも対応する高い拡張性」と説明する。

GUIを含むUIは、UX(ユーザーエクスペリエンス)との関連性が強く、そのデザイン

性が顧客満足に影響を与えるものになる。組込み分野では対象外でもIT視点からすると融合しあう要素だ。そうした傾向も見据え、戸井田氏は「デザイン性への強みを活かしたアプローチを考えていきたい」と独自の展開も構想している。

Linuxノウハウを凝縮した パッケージスイート

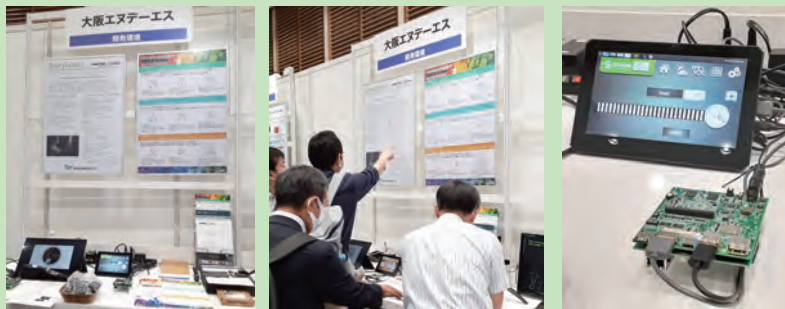
初めてLinuxを導入する企業など対象に、障壁となるような作業やメンテナンス、教育までサポートするサービスが組込みLinuxソリューション『BRICK eLinux Semi-custom made Service Suite』。自社開発ボードや汎用ボードでLinuxを動作させる際に起こりがちな課題を解決するサービスで、ポーティングやカスタマイズ、メンテナンスなどの側面からメニューを細かくパッケージ化。企業が課題に見合うパッケージをセレクトできるセミカスタムメイドで提供する。

「基本作業やボードに依存する作業をすべて取り込んでいます。例えばお客様開発のボードに実装されたLANポートで通信したい場合は、基本パックとEther対応パックを選んでもらえば、あとはチューニン

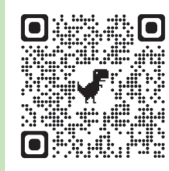
グベースでボードが動かします」(戸井田氏)という。

そうした『ポーティングサービス』のほか、ファイアウォールやIDS/IPS導入、工場出荷時検査ツール実装などをサポートする『インテグレーションサービス』、サービス導入企業にLinuxの技術知識を得てもらうためのコーチングや製品出荷後の運用体制を支援する『トレーニング・メンテナンスサービス』を用意、同社のノウハウを出し惜しみせず詰め込んだものとなっている。Linuxの採用を検討している企業は、ぜひ問い合わせてみるといい。

もともとLinuxとの関わりは深い。戸井田氏は、2000年に設立された組込みデバイスへのLinux導入を推進するモンタビスタソフトウェアのスタートアップメンバーの一人でもある。自身はその後Linuxの普及に向けた啓蒙を続けている。定期的に実施する活用フォーラムには200人を超える参加者が集まるといふ。「少しでも活かしてもらいたいという思いで始めたものです。Linuxを国内市場に紹介してきた一人として、貢献していく義務があると受け止めています」とは本人の弁だ。



▲「ET&IoT West 2022」でのブースの様子。ストーリーボードのデモもおこない新製品をアピールした。(右)ストーリーボードはYouTubeでイメージ動画を公開しているので、関心のある方は視聴をお薦めする。▶



▶展示ブースでも好評を得た組み込みLinuxソリューション『BRICK eLinux Semi-custom made Service Suite』本格的なリリース前から複数社の引き合いがあるほど注目が集まっている。

海外も視野にサプライチェーンの確立を目指す

エンタープライズ分野は業務系ERPや基盤系インテグレーション、組み込み分野はECUやAUTOSAR、IVIなど車載向けサービス、スマート家電、産業機器などソフト開発がこれまでの主軸。IoT時代を迎え、組み込み分野もクラウド上での開発が前提となってきた。そのスキルを取り込むため、今年からエンタープライズと組み込みの垣根を取り払い、両部門を再編成している。

「企業は生き物です。進化論同様、ただ大きいだけ、賢いだけでは淘汰の道を免れません。エッジができるだけではお客さんから発注してもらえない。そのためクラウドの知見のある技術者を組み込みの部署に置き、AWSやAzureなどを組み合わせて提案できる体制に更新しました。ビジネス環境やITにおける変化のスピードがますます加速するなか、変化をチャンスと捉え柔軟に対応する力が、未来への存続において必要不可欠です。時代が求める価値をいち早く提供することで、つねに社会に必要とされる存在であり続ける。それが当社の目指す姿です」と代表取締役の平山武司氏は力強く語る。さらに「自社製品の開発/販売とそれに伴う付帯サービスを提供するソリューションプロバイダーとしてポジションを確実にし、さらにはソフト&ハード領域の最先端技術にも取り組み、競争領域でのさらなる差別化を

図り進化し続けることを目指します」と平山氏は続ける。

見据える先は新製品や新規ビジネス開発であり、海外展開も視野に入れている。そうした基軸となるのが、この4月に開所されたアドバンスドテクノロジーセンターだ。ハードウェアにも事業領域を拡大し「そのためにFPGAなどによる半導体ロジック設計経験者の採用を始めています」(戸井田氏)と体制を固めながら新規事業を促進する。コアバリューとして、新ビジネスモデル製品開発/革新的プラットフォーム提供/最先端デジタル応用ハード&ソフトデザイン/戦略的サプライチェーンの4つを掲げている。

先にふれたGUIなどアドオンソフト、組み込みLinuxやRISC-Vマーケットのソフトウェアスイート、画像認識技術VISION AI、FPGA、IP関連などの製品やサービス提供を計画中という。「チャレンジしたいのはまだ中心となるプレイヤーが出ていないジャンル。それら技術のコアとして、2年後には強みとなるべくプラットフォームの構築を考えています」(戸井田氏)。その先に見据えるグローバルポジションは、APACを中心とした市場での開発サプライチェーンの確立という。「国内外のIDH(設計専門)企業と開発サプライチェーン体制の構築を目指します。海外の企業はOSSなどでも進歩するスピードは凄い吸収する点がたくさんある。先行されているスマート家電でも日本の企業が開発

するきっかけとなる製品を提供して、ものづくりで負けないようリードしていきたい」と戸井田氏は意気込みを語る。

組織の成長を期待するロボコン参戦

また新たなチャレンジとして、JASA主催のETロボコンへの参戦を決めた。立候補した5名でチームを構成、オフィスに公式コースも設置して練習に励んでいるという。もともとは戸井田氏が社内での競技会を計画したことがきっかけ。「そうしたなかで“ETロボコンに参加したい。ロボットを動かしたい”という社員が現れて、そういう積極さは活かしたいし体験することでマインドも変わる。そこから組織が活性化するエンジンになると感じています」。そのチャレンジを継続していく意向で、大会スポンサーとしても参加したいという。「たぶん初戦で敗退するでしょう」とはご謙遜だが、体験から学んだことがこの先の製品やサービスに注入されていくことだろう。

互いに連携し、利用しあい、貢献していく。こうしたことが人としても企業としても成長を促す、と戸井田氏は考える。「お互い利用できることも多岐にわたるでしょうし、我々が貢献できることもあるでしょう。そうしたことをJASA会員としての活動にも重ね合わせて、一緒に盛り上げていければと思います」。技術交流を望む多くの会員も、同社の活動に大いに期待しているに違いない。

●「会社訪問」のコーナーでは、掲載を希望される会員企業を募集しています。お気軽にJASAまでお問い合わせください。